

【課題】

安心して学ぶことができる環境をつくとともに、学習した成果を社会全体で幅広く通用させていくためには、学習の質の保証や学習成果の評価・活用の取組の充実が必要。

生涯学習・社会教育の分野における学習の質の保証

学習成果の評価とその社会的通用性の向上

参考資料1 1.

【検討の視点・留意点(これまでの提言)】

(学習の質保証)

質の保証に向けた方策について検討を深めることが必要。

質の保証の取組が形式的なものにならないように、また国際的な動向や社会的通用性の確保等についても留意。

(成果の評価・活用)

個人の学習歴が見える化し、学習成果を評価する手法や、評価された学習成果の社会的通用性を向上させる方策について検討を深めることが必要。

教育プログラムと各職業で必要となる能力の対応関係の明確化を図るキャリア段位制度と教育システムの連携に関する検討状況を踏まえることが必要。

ICTの活用についても検討が必要。

NPO、民間事業者等と行政の連携の在り方

生涯学習においては、民間団体の果たす役割が大きく、行政の役割は、それらの自主的な「民」による活動を側面から支援しつつ連携し、持続可能な活力を生み出していくこと。

(例: 一定の質や信頼が得られるような基準づくり等による環境づくり、国民への情報提供、民間団体による情報提供が積極的に行われるような方策の措置、関係機関とのコーディネート)

< 学習の質の保証 >

【背景】

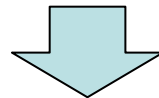
参考資料1 3.

学習者が安心して学ぶことのできる環境を整えることは、いつの時代でも必要。

少子高齢化が急速に進み人口減少社会に突入した現代の日本では、特に国民一人一人の能力向上が喫緊の課題であり、そのためには、社会全体で多種多様な学習機会が提供され、また、提供される学習の質の向上が必要不可欠。

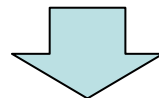
学習機会の提供者のうち、学校以外の主体の質保証の取組実態は多種多様であり、取組の進捗に大きな差がある。(学校については情報公開の義務づけ等の取組が進んでいる。)

人材の国際流動性の向上等を背景として、ISO29990の認証開始など、国際的に学習サービス事業者の質保証の取組が進められている。



学校以外の学習機会の提供者の質保証の取組促進が必要な状況。

(ただし、学校以外の学習機会の提供者が極めて多種多様であること、国際的な動向、国や地方の財政状況の逼迫等に留意する必要がある。)



【将来像】

安心して質の高い学習を受ける機会を、学習者自身の選択により、容易に得ることが可能な社会の実現

< 学習の質の保証 >

学習機会の提供者による学習の質保証が進まない理由として、
質保証の取組を行う必要性やインセンティブを感じていない。
どのような質保証の取組を実施すればいいのかわからない。
質保証の取組を実施するのに、大きな費用や労力がかかる。
といったことが考えられるのではないか。



学習の質保証の取組を進めるための方策

学習機会の提供者が質保証の取組を実施する意欲を持つようにするための取組。

の例：質保証の取組を実施している学習機会の提供者の周知又は質保証の取組を実施することの意義・メリットの提示。

学習機会の提供者が質保証のために必要な手法等を容易に会得できるようにするための取組。

質保証の取組を実施している学習機会の提供者に対する各種手続きの簡素化又は一部免除。

国や地方の補助金や事業の応募要件に質保証の取組実施を追加。

学習機会の提供者がより少ない費用と労力で質保証の取組を実施できるようにするための取組。

の例：情報公開、自己点検・評価、第三者評価等の質保証の取組の手法等を開発し、周知・普及。


の例：費用対効果の観点から質保証の取組の効果を検証し、結果を周知。

質保証の取組のうち、最もコストのかからない情報公開を重点的に推進。 等

【現状の施策】

< 施策の基本的考え >

- 情報公開システムの構築・普及
- 自己点検・評価、第三者評価等の評価システムの構築・普及



参考資料1 4.

< 具体的な施策 >

- ・ 検定試験の評価ガイドラインの普及
- ・ 認定社会通信教育
- ・ ISOによる非公式教育・訓練サービスの国際標準化等民間における第三者評価の仕組みの構築の促進
- ・ 専修学校教育の質保証・評価・情報公開システムの構築・普及

【論点】

- ・ 国と地方、民間の役割分担を踏まえつつ、各主体の具体的な取組を促進するための方策について
- ・ 教育振興基本計画に盛り込むべき、国の具体的な施策に係る成果指標の考え方について

学習の質の保証について、民間団体の果たす役割が大きい中、国や地方公共団体は、どのような取組を行うことができるか。

(例)

- ・ 質保証の仕組みの望まれる在り方や将来像を明らかにし、周知していくことは行政(公民館等の機関含む)の役割ではないか
- ・ 質保証の仕組みにおける国の直接的な役割はどうあるべきか(ガイドラインの策定など質保証において留意すべき点についての考え方を示すこと、又はそのような取組を支援をすること等)
- ・ 学習機会の提供者自身による情報公開や自己点検・評価を促進するためにはどのような取組が必要か(評価に携わる者の質向上等)
- ・ 第三者評価の仕組みの構築を促進するためにはどのような取組が必要か(民間の先駆的な取組を紹介し導入を促すべきではないか等) 等

上記の取組の達成度を測定するために、どのような成果指標が考えられるか。

(例)

- ・ 情報公開や自己点検・評価を実施している学習機会の提供者の割合の増加
- ・ 第三者評価を受けている学習機会提供者数の増加 等

< 学習成果の評価・活用 >

参考資料1 3.

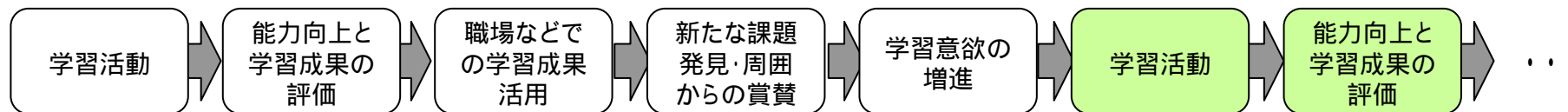
【背景】

学習した成果を、個人が職業生活や社会における多様な活動で活用することが期待されている。学習へのインセンティブや社会全体の教育力向上の観点からも、地域社会における様々な教育活動に活かされることが望ましい。

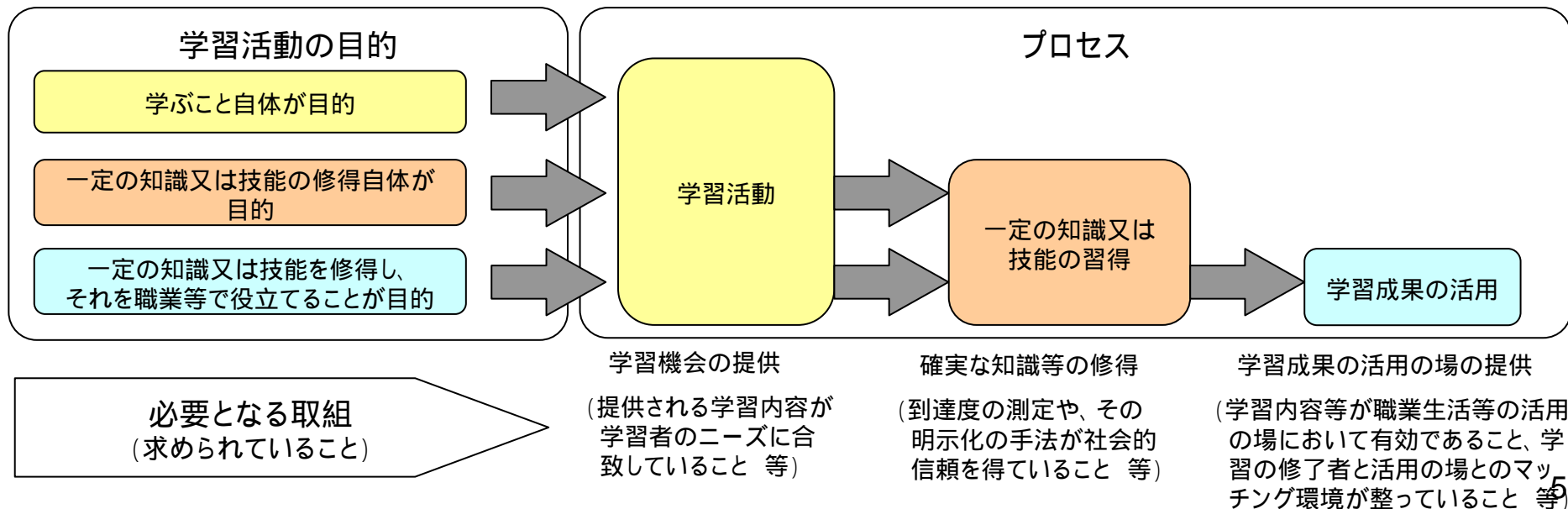
多様な学習成果の社会的通用性を向上させるため、学習成果の評価に関する仕組みや、学習成果の活用の場と学習修了者をマッチングする仕組みなどの構築を促進することが必要な状況。

【将来像】

学習を軸とした社会全体の好循環の構築



【学習活動の目的と学習成果の活用】



< 学習成果の評価・活用 >

学習成果の活用が進まない理由として

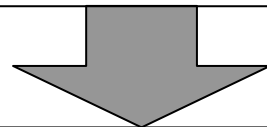
そもそも学習者が学習成果の活用を目的としていない。

学習の到達度の測定及びその明示化の手法が社会的に認知されていない、又は信頼を得ていない。

学習内容等が学習成果の活用の場のニーズを満たしていない。

学習の修了者と学習成果の活用の場とをマッチングする環境が整っていない。

といったことが考えられるのではないか。



学習成果の活用を進めるための方策

学習者が学習成果を活用したいという意欲を持つようにするための取組。

の例：学習成果の活用者の事例を収集し、その達成感等を周知。

学習の到達度の測定及びその明示化の手法が社会的に認知され、信頼を得られるようにするための取組。

の例：各種検定試験の事業者による自己評価や第三者評価の実施

学習内容等が企業やNPO等の学習成果の活用の場のニーズを満たすようにするための取組。

の例：学習成果の活用場から学習活動の提供者へのフィードバックの機会構築


学習の修了者と学習成果の活用の場とをマッチングする環境を整備するための取組

の例：学習の修了者と学習成果の活用の場をマッチングする仕組みを各地域で構築

【現状の施策】

< 施策の基本的考え >

習得した知識・技能を評価し、評価結果を広く活用する仕組みの構築
社会人向け実践プログラムの検討
関係者間のネットワークの形成による自発的・自立的な事業企画・実施の促進



参考資料1 5.

< 具体的な施策 >

- ・ 検定試験の評価ガイドラインの普及
- ・ 単位認定、履修証明制度
- ・ 人材認証制度の促進
- ・ 実践キャリア・アップ戦略
- ・ 中核的専門人材養成の推進
- ・ 全国生涯学習ネットワークフォーラム
- ・ 学習成果の評価・活用におけるICTの活用

【論点】

- ・ 国と地方、民間の役割分担を踏まえつつ、各主体の具体的な取組を促進するための方策について
- ・ 教育振興基本計画に盛り込むべき、国の具体的な施策に係る成果指標の考え方について

民間団体や地方公共団体等の取組を国としてどのように促進するべきか。

(例)

- ・ 学習成果の活用の仕組みの望まれる在り方や将来像について明らかにし、周知していくことは行政の役割ではないか
- ・ 学習成果の活用事例の収集と優良事例からのノウハウの抽出及びその周知を国として取り組むべきではないか
- ・ 各種検定試験の自己点検・評価や第三者評価の実施の促進をどのように進めるべきか
- ・ 学習修了者と学習成果の活用の場とのマッチングや、学習成果の活用の場のニーズの学習機会提供者へのフィードバック等を国として促進する必要があるのではないかと(人材認証制度において学習成果の表示のルール作りを促進するなど) 等

上記のことを促進するため、どのような達成目標や成果指標が考えられるか。

(例)

- ・ 過去1年間に生涯学習に取り組んだ者のうち、学習成果を活用した者の割合の増加 等